

計画可能な都市地物の 男性性・女性性イメージの比較分析

A Comparison of Masculine or Feminine Images
on Operational Facilities in The City

佐佐木 綱^{*}、山田 正人[†]

by Tsuna Sasaki, Masahito Yamada

The gender, that takes root in 2 major principle of masculine or femine, is one of the most valuable concepts to design a character of a city. Classification of the gender of a rigeon is paid attention and matched to the operational facilities. Case studies take place in Osaka, adopted in wards, Sumiyosi-ku and Minato-ku, which makes strong con-
-trasts in characters or in images. Influence of rivers, streets, parks or structure of a city is shown.

1. 都市の性

巨視的にみた都市の性というものは、多分にその人の主観的なものであり、また現状の都市をどう感じるかということの他に、その都市がこういった都市になって欲しいという期待を込めた計画にしたいことがあるかもしれない。そこで問題を2つに分けて現在の都市の持つ性の度合を客観的に判断する研究と、住民を含めた国民的合意に即した性の尺度にあった都市の設計をどのようにすべきかといった研究に分けて考えていく必要がある。

前者のアプローチは地物や施設の性の度合と陰陽の階層構造を明らかにすることによって遂行するこ

とができるが、後者のアプローチは、その都市に対するみんなの期待がどのようなものであるかによって異なってくるわけであり、その都市の歴史・文化がどのようなものであったかという単に過去の性の尺度に近づくだけでは計画として不十分であるし、地域的な性感覚のバランスにたちながら個々の都市の性を考えていかなければならないであろう。現在の段階としていえることは、経済の高度成長によって陰陽のアンバランスが急速なテンポでもたらされたことである。心の無意識層にあると思われる陰陽のバランスを求める気持ちが、父性原理に基づいた都市の男性化に対して母性原理による都市の復権を要求しているように思われる。日本の文化が母性的であることを特徴としているのであればなおさらのことである。ここに都市計画に先だってこれまでの歴史の中でその都市のようになってきた陰陽の性格を知りたい理由の一つがあるのである。男性的な要因が整備されていくと逆に女性的なものを求める気持ちがコ

^{*} 正会員 工博 京都大学教授 工学部交通土木
工学教室 (〒606 京都市左京区吉田本町)

[†] 正会員 工修 岡山大学助手 工学部土木工学科
(〒700 岡山市津島中3-1-1)

ンプレックスとしてその人の心に蓄積し、それが都市の女性化へのエネルギーとなって爆発してきているのが現代ではないだろうか。¹⁾

以下においては都市の地物の持つ性の度合を客観的にとらえることを目的としつつ、都市の設計をいかにすべきかとの観点に立って考察を進める。

2. 性感覚の計量化

本研究は、都市空間の地域的なまとまりの中で男性性・女性性のイメージに着目し、地物の機能的なまとまりとイメージとの対応を把握することを目的としている。ここでは、大阪市を構成しているいくつかの区について分析することを試みる。その中でも対照的な機能・性格を持つ住吉区、港区をとりあげてみた。区においてはイメージの上での地域のまとまり、あるいは行政上の境界の制約によって計画問題を生じることがある。

これまで男性性・女性性についての調査では、多くの人にとって男性性・女性性のイメージの7段階評価を短時間で回答できることが示された。一般名詞に対する男性性・女性性の調査においては非常に女性的(-3)から非常に男性的(+3)までの7ランクの評点付けでそれぞれの性感覚を問い、その度数分布型が分類された。²⁾「道路」に関する名詞の性感覚についてはいくつかの規定因子が抽出され、また、「街路空間」についてその(スライドを用いた)視覚的要因について分析が加えられた。³⁾街路空間がそれ自体単体としてではなく沿道の植栽や付帯施設、あるいは遠景とともに構成されていることから、それらを一体としてとらえようとするものであった。このような計画可能な施設、あるいはその背景を含めて広義に解釈した施設(地物)によって計画上の問題にアプローチすることができるのではないだろうか。

地域のイメージはその地域におけるさまざまな地物あるいは施設や機能を総合したものであるといえよう。その地域から何を思い浮かべるかからその地域のイメージの概略がつかめそうである。一方、直接思い浮かべることができなくても、その地域における経験や見聞が潜在的にその地域に対するイメージに与える影響は無視できない。それらを完全に顕在化することは不可能であろうが、ある断面を定め、

網羅的に再認させることで集計レベルでは部分的に顕在化することができるかも知れない。

本論文においては、都市の施設・機能を表す名詞あるいは地名(地域を表す固有名詞)について、その性感覚(性格)に関する調査をもとに考察する。

3. 大阪の地物の性

(1) 大阪市各区の性格分類

ここでは、大阪市の性格を区のレベルから集計して算出したいという考えから、各区の性格を規定する因子を見だし、その情緒的意味を明らかにするため主に計量心理学の分野で用いられるSD法(Semantic Differential Method)を用いた。15の形容詞対について7段階の評定尺度で聞いたところ、男性性・女性性に大きな負荷をもつ因子が検出され、その他に陽気な-陰気な、庶民的な-威厳のあるといった軸に大きな負荷を含む因子も検出された。(調査1)

調査1は昭和61年2月に大阪市を熟知した人々を対象として行われた。男性71人、女性39人で年齢、職業は各層に分散している。

各区の「男性的な-女性的な」軸に対するプロフィールを図-1に示す。また、15形容詞対における評価の特徴を表-1に示す。大阪の区が男性的な評価に偏っていることから各区の評価が単純に集計されるならば大阪の評価も総体として男性的となることが推測される。同様に各区に対する評価から大阪の性格を推測しうるならば、大阪は活動的で、ごちゃごちゃしており、庶民的、うるさいが、殺風景であることになる。

因子分析の結果を表-2に示す。えられた3因子の値をもとに各区の性格を分類すると表-3のようになる。男性的で、陰気、庶民的といった区が多くを占める。第1因子(男性性・女性性)において2以上の値(因子得点)をとる大正区、此花区、西淀川区は工業地帯であり浪速区、西成区は労働者の街といった生産環境的な視点に立った要素が男性的と判断させたものと思われる。逆に東淀川区、旭区、鶴見区、東住吉区、平野区、阿倍野区、住吉区等は住宅地であるといった生活環境的な視点が女性的な要因としてあげられる。

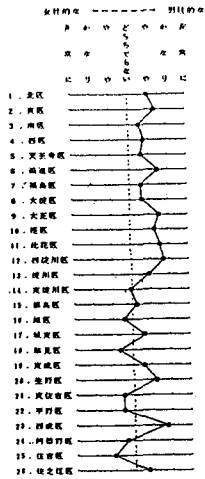


図-1 「男性的な-女性的な」軸プロファイル

表-1 各形容詞対に対する評価の特徴

形容詞対	全体的に	顕著なイメージがある区	両性型の区
男性的な-女性的な	男性的な方へ偏っている	男性的な-西淀川区、西成区 女性的な-住吉区	北区、東区、南区、生野区 天王寺区、都島区
うるさい-静かな	うるさい方へ偏っている	うるさい-南区、西淀川区、西成区 静かな-住吉区	東成区、城東区、平野区、 阿倍野区
活動的な-落ち着いた	活動的な方へ偏っている	活動的-北区、南区 落ち着いた-住吉区	都島区、港区、城東区、 平野区、阿倍野区
殺風景な-うるおいのある	殺風景な区が多い	殺風景な-西淀川区、大正区、西成区 うるおいのある-住吉区	西区
神聖な-俗っぽい	俗っぽい方へ偏っている	俗っぽい-南区、西成区	天王寺区
陽気な-陰気な	どちらでもない区が多い	陽気な-南区 陰気な-西成区	淀川区
にぎやかな-さびしい	どちらでもない区が多い	にぎやかな-北区、南区	天王寺区
明るい-暗い	どちらでもない区が多い	明るい-北区、南区 暗い-西成区	
力強い-弱々しい	どちらでもない区が多い	力強い-北区、南区	
協調的-排他的	どちらでもない区が多い	排他的-西成区	
威厳のある-庶民的な	庶民的な方へ偏っている	威厳のある-東区 庶民的な-南区、生野区、西成区	
理性的な-情緒的な	どちらでもない区が多い	理性的-北区、東区 情緒的な-南区	
かたい-やわらかい	どちらでもない区が多い	かたい-東区、西淀川区、大正区 やわらかい-南区	
すっきりした-ごちゃごちゃした	ごちゃごちゃした方へ偏っている	ごちゃごちゃした-南区、生野区、 浪速区、西成区	北区、港区、東住吉区
生産的な-消費的な	どちらでもない区が多い	生産的な-東区、西淀川区、此花区 消費的な-南区、西成区	

表-2 因子分析の結果

因子寄与率 固有値	第1因子 41.6% 3.64	第2因子 31.5% 2.76	第3因子 26.9% 2.36
因子付加重			
うるさい-静かな	0.85	陽気な-陰気な 0.84	威厳のある-庶民的な 0.75
活動的な-落ち着いた	0.81	にぎやかな	理性的な-情緒的な 0.71
男性的な-女性的な	0.74	さびしい 0.77	かたい-やわらかい 0.67
殺風景な-うるおいのある	0.62	明るい-暗い 0.77	すっきりした
俗っぽい-神聖な	0.57	力強い-弱々しい 0.53	ごちゃごちゃした 0.65
ごちゃごちゃした		協調的-排他的な 0.43	生産的な-消費的な 0.54
すっきりした	0.45		神聖な-俗っぽい 0.52
力強い-弱々しい	0.44		

表-3 26区の3因子による分類

因子	庶民的	威厳のある
男 陽	南区 淀川区	北区 東区
性 除	都島区	
的 気	天王寺区 浪速区	西区
	福島区 大淀区 大正区	
	港区 此花区 西淀川区	
	城東区 東成区 生野区	
	西成区 住之江区	
女 陽	東淀川区 旭区	
性 除	東住吉区 阿倍野区	
的 気	鶴見区 平野区	

(2) 大阪の代表的な地物

大阪市の性格がおよそ上記の3因子で把握できることがわかったのでこの3因子を代表する軸を用いて各区の代表的な地名48ヶ所及び行事・施設等29ヶ所のイメージを聞いた。

「男性的な-女性的な」「陽気な-陰気な」「庶民的な-威厳のある」を7段階の評定尺度としてもちいて調査を行った。特に北区、住吉区、港区についてはより詳細なイメージを把握するためにそれぞれ何ヶ所か別に聞いている。また都市に関する20の一般名詞についても同様に調査した。(調査2)

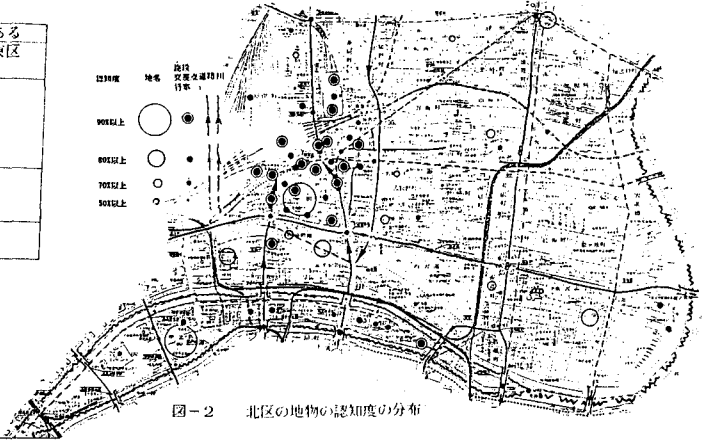


図-2 北区の地物の認知度の分布

また、大阪市の区の性格がどのような地物・施設により規定されているかをみるため市販の地図から地名・施設名を抜き出し認知度を調査した。(調査3) 3区について調査したが北区についての例を図-2に示す。この結果各区には核となる施設・地区とそれらを相互に結ぶ軸となる交通施設が中心となって認知度が高く分布していることがわかる。同時

に大阪及び3区からの連想についても調査した。（調査4）

調査2・3・4は同時に昭和61年12月にやはり大阪市を熟知した人々53人を対象に行われた。大部分は男性で、公務員、会社員、学生が中心であった。同様の調査を港区、住吉区の住民それぞれ約80人に対しても行った。対象者は性別・年齢・職業とも各層に分散している。

3軸の平均値の正負及び分布形により各区の代表的な地名・施設・行事を分類した。（表-4）都市に関する一般名詞と対応をつけるとそれぞれの地域の性格がある程度説明される。

相対的に多い男性的な地域のうち鶴橋・京橋・天六・野田阪神・十三といった陽気で庶民的なところは歓楽街と同じで、また大阪もこれらに近い。天王寺、玉造、弁天町、西九条等の環状線沿いの地域は庶民的で、陰気なところが多い。駅周辺、車窓の風景あるいは環状線の電車が実際の街の構成よりイメージの形成に大きな影響力をもっているのかもしれない。新大阪や北浜といったビジネス街では威厳のあるといった評価がなされている。港や工場街も威厳があるとされるが、分布型は中性型（「どちらでもない」にピークがある）である。土佐堀もビジネス街の一角を成すが、女性的だとされる中之島に隣

接し、やはり女性的に評価される川の影響からか中性型の評価となっている。もともと八百八橋といわれる大阪において男性的に偏った性格を考えていく上でこの土佐堀に対する評価はおもしろい。

梅田、難波といったターミナルは両性型となっている。駅、ビジネス街、歓楽街、商店街、地下街といった多面的な機能の集積が2面的な評価をさせるものと思われる。その意味では天王寺に比べ阿倍野が多機能なターミナルとして認識されているといえる。またターミナル機能が移転した上本町は両性型とならずに中性型となっている。新大阪はビジネス街として評価され、ターミナルとしては比較的機能が単純であることから両性型とならず男性型となっているものと思われる。

女性的に評価されている千林、関目、豊里、帝塚山はいずれも住宅街である。平野や長居など交通の結節点や中心集落としての機能を持つところは平均すると女性的な評価をされるものの分布型は中性型となっている。

（3）キタとミナミ

大阪という「言葉」から連想される「名詞」を聞いた。（調査4）大阪からの連想はいくつかの対置関係とキーワードを中心とした語群によりまとめられる。連想の頻度では53人中「大阪城」32人、「通

表-4 大阪の代表的地の性格分類

		庶民的な		威厳のある	
男	陽気	鶴橋	京橋	天六	大阪城
	陽気	野田阪神	十三	難波	OBP ツイン21
	陽気	今宮えびす	天六	大阪	都市空港
	陽気	天神	豊島	大阪空港	空港
性	陰気	天王寺	玉造	弁天町	新大阪
	陰気	西九条	大正	福島	北浜
	陰気	今宮	天下茶屋	萩ノ茶屋	ビジネス街
	陰気	湊町	放出	(歌島)	工場街
的	陽気	杭全	(立売堀)	(舞)	南港
	陽気	中津	(蛇島)	深江	大阪港
	陽気	築港	通天閣	新世界	中央大通り
	陽気	大阪駅	地下鉄	環状線	阪神高速道路
中性型・両性型	陽気	上本町	千日前	船場	(両性)キタ
	陽気	長居	今宮えびす	梅田	(両性)難波
	陽気	(両性)難波	ミナミ	平野	土佐堀
	陽気	今里	喜連瓜破	阿倍野	森ノ宮
女	陽気	商店街	地下街	中之島	帝塚山
	陽気	千林	関目	マルビル	太陽の塔
	陽気	中之島公園	大阪城公園	公園	御堂筋
	陽気	鶴見緑地	住吉大社	お初天神	
性	陰気	法善寺橋町	造幣局通り抜け	御堂筋パレード	街路
	陰気	大阪女子マラソン	豊里	桜宮	夕陽丘
	陰気	四天王寺	路地	川	
	陰気				

注) _____ : 一般名詞 . : 平均値が女性 * : 平均値が男性

表-5 大阪からの連想

回答数	118語 (のべ327個)	平均回答数	6.056個
回答者数	35人 (大阪関連: 大阪城・大阪駅・大阪タワー・大阪港・大阪弁・大阪城公園・大阪で生まれた女・大阪球場・大阪商人)		
32	「大阪城」	1語	
21	「通天閣」	1語	
19	「御堂筋」	1語	
	(川関連: 川・河川・淀川・大和川・木津川)		
15	(商関連: 商店・商人・商都・商人の街・商業・大阪商人)		
12	「淀川」	3語	
11	「道頓堀」	2語	
9	「天神まつり」	2語	
7	「川」	1語	
6	「商人」	2語	
5	「北新地」	1語	
4	「心斎橋」	5語	
3	「大阪駅」	5語	
2	「釜ヶ崎」	18語	
1		75語	

表-6 大阪からの連想 (第1想起語)

回答者数	8 (10)人	大阪城 (大阪城・公園と答えたもの2人)
6人	御堂筋	
3 (4)人	梅田 (梅田 (北) と答えたもの1人)	
3人	天神祭、川、商人	
2人	商店、たこやき	
1人	道頓堀、船場、心斎橋、京橋、反東京、天下の台所、	
	でっち、あわおこし、大阪で生まれた、関西弁、くだおれ	

天関」21人「御堂筋」19人と都市施設の中でも象徴性の高い構造物が上位を占めた。(表-5)

連想物を複数答える形にしたため第1想起語以外は連想されたものからの2次的な連想である可能性がある。これについては、想起物の重複関係、また第1想起語の分析による補完をおこなった。この結果いくつかの事例について強い関連があると思われる。大阪から連想された大阪城と通天閣の関係はこのような例の1つである。19人が大阪城と通天閣をともに答えているが、4行2列の回答欄の左上の(

)に答えられた語を第1想起語とすると18人が大阪城を第1想起語としつづいて御堂筋 6人他となり通天閣を第1想起語としたものはいなかった。(表-6)しかし、多くの人によって連想された通天閣が大阪からの直接の連想でなかったとしても、重要なエレメントである。3軸評価においてはともに男性的ながら大阪城は陽気で威厳があるとされるのに対し通天閣は陰気で庶民的と対照的である。

続いてミナミ、梅田、淀川を12人が答えており、キタ、道頓堀が11人で続く。10人がミナミとキタをともに答えており、ミナミのみ答えた2人は梅田を、キタのみ答えた1人は道頓堀・難波を答えていることから実質的にはキタのみあるいはミナミのみを答えたものはなかった。

キタ、ミナミともやはり男女性軸の平均値は男性的であるが両者とも両性型の分布をしている。キタは威厳があるとされミナミは庶民的であることは大阪城と通天閣の関係に対応づけられる。キタの中心の梅田に対してミナミでは道頓堀や難波、心斎橋と複数の地名が連想されている。両者を結ぶ御堂筋は両性型ながら女性的に評価されている。

あらかじめ選んだ77個の名詞群の中に含まれていない名詞で、連想頻度の多いものとして「商業に関する名詞」があげられる。商業の街として大阪のイメージを明らかにするためには、これらの名詞に関する調査が必要となる。なお、ミナミの地名である「道頓堀」「心斎橋」などに関しても本調査では対応できていないので、今後の調査が必要であろう。

(4) 住吉区と港区

住吉区の代表的地物を、その3軸評価値により性格分類すると表-7のようになる。全体的には、女性的で陽気なイメージに偏っている。

表-7 住吉区・港区の代表的地物の性格分類

		庶民的な		威厳のある	
		あびこ	あびこ筋		
男	陽気な				
	陰気な	杉本町 港通り 弁天町 弁天堀頭 地下鉄	築港 (市岡) 中央空堀 大阪港駅 環状線 鉄道	中央大通り 阪神高速湾岸線 港太橋 ハニバル・エニグマ	国道43号線 高速道路
	中性・両性型	阿倍野筋			
	陰気な		(甚兵衛の渡し)		
女	陽気な	長居 長居公園 住吉大社 上町線	住宅街 住吉区公園 公園通り たいこ橋 住吉公園	帝塚山 帝塚山学院	
	陰気な		路地 川		
	中性・両性型				
	陽気な				

(注) : 港区の地物 : 一般名詞 : 参考
上記以外: 住吉区の地物 : 平均値が女性 : 平均値が男性

住吉区と長居公園、住吉大社といった大阪でも代表的な公園、神社はいずれも女性的、陽気で庶民的である。これらは住吉区のイメージを規定する大きな要因になっていると思われる。一方、住吉区において連想調査から帝塚山の存在感が大きい、これは、帝塚山が大阪に比較的小さい威厳があるというイメージがあるためであろう。

住吉区の代表的地物の多くが女性的であり、帝塚山のように威厳のあるところもあるが、庶民的とされているところが多いということがわかった。前回調査(調査1)の分析結果から得た「静かで落ち着いた」が、他に強い特長がない」という住吉区のプロフィールに加えて、さらに今回の調査では庶民的で落ち着いたなじみやすいところが多いということが明らかにされた。

住吉区の場合、連想調査においては住吉大社を53人中46人が想起した。これは区名と名称が重なったことによる相乗効果もあるかも知れない。

住吉大社と地理的にも近い住吉公園が次にくる。想起人数は16人である。ほぼ同数の15人で帝塚山が続く。

長居(長居公園・長居陸上競技場)あびこ(あびこ観音・あびこ筋・あびこ駅)といった地下鉄沿線の地名が目立つ。他は阪堺線・上町線といった路面電車や南海線・阪和線といった鉄道が目につく。同じ住吉区内に路線を持つ南海高野線や地下鉄御堂筋線は想起されなかった。

神社・公園・大学・川・鉄道と住宅地としては恵

まれた要素の多い区であり、そういった要素がまた想起されている。ちなみに、イメージの上ではとにかく、実際の行政区分では住吉公園は住之江区、長居公園は東住吉区に含まれる。

住吉区の住民調査においては、92人中85人が住吉大社を連想した。ついで42人が長居公園を連想している。会場調査で53人中16人が連想していた住吉公園は、30人が連想し長居公園の後にくる。住吉区の住民にとって長居公園のウェイト（93人中42人）は会場調査でのウェイト（53人中10人）に比べ大きい。逆に帝塚山のウェイト（93人中19人）は会場調査（53人中15人）に比べ下がるが、帝塚山に関連する地物（帝塚山学院・帝塚山古墳等）をあわせると30人で会場調査と大きな変化はなかった。

あびこ観音は会場調査では想起されなかったが16人が想起している。あびこ観音の認知度は住民調査においても76.1%と連想された他のものと比べ低いことを考慮するとあびこ観音は印象に残りやすい施設であることがうかがえる。

住吉区は住吉大社の大きな存在感のもと一般にも良好な住宅地として認識想起され、連想されるいくつかの核となる地域を中心に交通施設のウェイトも大きい。

港区の代表的地物を、3軸評価値により性格分類すると表-7のようになる。

ほとんどの地物は、男性的で陰気なイメージを持つ。港に関する地物で、港大橋、ハーバーレーダーのようなシンボリック存在のものは威厳があるとされている。弁天埠頭、中央突堤、築港の様な面的広がりのあるものは、庶民的だとされている。

港区と港の関係は、両方とも男性的で陰気なイメージがあるという点で共通している。異なる点は港は威厳があるのに対し、港区は庶民的であるという点である。これは、港区全体のイメージについては港のイメージの影響以上に、生活空間としてのイメージの影響が大きいためであろう。

今回の調査の結果から、港区の代表的地物は大部分が陰気で、しかも男性的であることが明らかになった。これは、前回調査（調査1）の分析結果から得られた「活動的で男性的ではあるが、陰気で寂しい」という港区のプロフィールとほぼ一致している。

港区について最も多く連想されたのは「船」20人

である。ついで17人が「倉庫」を連想した。固有名詞では「大阪港」16人がもっとも多い。

港区は住吉区と異なり固有名詞（地名を含む）が想起されることが相対的に少ないことが特徴である。逆に「船」や「倉庫」など港湾施設に関する普通名詞や「海」が想起される傾向にある。このことから被験者は港区という区からの連想ではなく、港からの連想を行ったものが多かったと判断できる。これは、港区のイメージが「港」によって規定されることを意味していると考えられる。

港区の住民調査においては、82人中31人が大阪港を連想した。港区の会場調査における特徴は一般名詞が多いことであった。一方、住民調査においては港大橋25人・国際見本市21人と続く。これらは住吉区における住吉大社（53人中46人・92人中85人）大阪に対する大阪城（53人中32人）に比べ想起人数が少ない。但し、港関連の地物で群を作ったところ50人が想起している。なお現在、国際見本市は南港（インテックス大阪）に移り港区にはない。

以下、18人が交通科学館・弁天埠頭を、17人が天保山を連想した。海・船は13人、港は12人であった。

関連地物が群を作るものとしては、港関連50人は既に述べた。弁天町・弁天埠頭等からなる弁天関連を31人が、天保山関連を21人が想起した。東西に港区を縦断する港通り 9人、中央大通り 8人をはじめ道路関連を想起したものは17人であった。

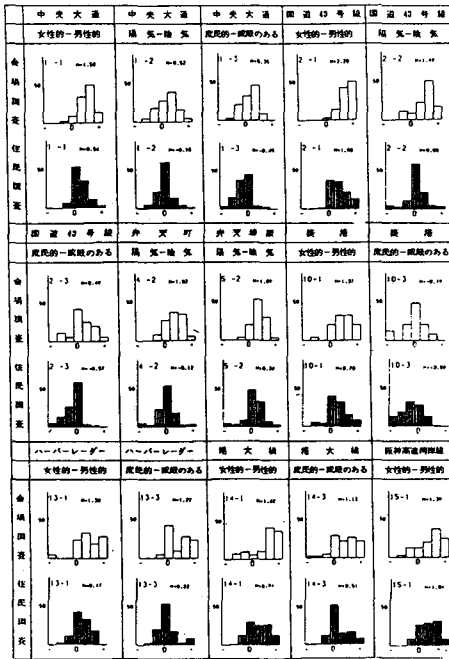
第一想起語では、17人が大阪港を、6人が港大橋を、5人が海、船、築港を、想起した。

施設の想起が多かったが、地名の想起は少なかった。これは、施設の名称が地名と無関係なことで大阪港のように施設自体が大きく、施設そのものが地名の役割を果たす、いわば同じレベルで捉えられているためと思われる。

中央大通り、国道43号線のような幹線道路は、会場調査ではともに男性的、陰気、威厳のあるというイメージであった。住民調査では、ともに庶民的となり、さらに中央大通りは陽気であるとされた。住民の視点から見たときこうした幹線道路も生活空間の一環として日常交通に利用される、あるいは住宅街区に対比されるといった要因が大きな影響を持つと思われる。

港に關係する地物である築港、ハーバーレーダー、

表-8 会場調査と住民調査（港区）の評価ヒストグラム



港大橋、湾岸線は、表-8のヒストグラムから考えると、築港が庶民的な度合いが強まった以外は、中性型となった。生活に直接関わりのないものについては、はっきりとしたイメージがもたれていないと考えられる。

表-9 既存調査との比較
(男性 + 女性)

京都市調査	大阪調査(61.2)	大阪調査(61.2)
高速道路(+2.14)	高速道路(+2.11)	高速道路(+2.04)
幹線道路(+1.91)	幹線道路(+1.85)	幹線道路(+1.85)
路地(-1.01)	路地(-0.72)	路地(-1.02)
街路(-0.22)	街路(+0.54)	街路(-0.13)
河原町通り(-0.48)	新御堂筋(+1.38)	御堂筋(-0.29)
丸太通り(+0.62)	御堂筋(-0.03)	中央大通(+1.63)
	中央大通(+1.58)	公園(-1.57)
公園(-1.56)	公園(-1.67)	
円山公園(-1.64)	天王寺公園(+0.62)	長居公園(-0.98)
	長居公園(+0.29)	鶴見緑地(-0.70)
	鶴見緑地(-1.18)	大城公園(-1.11)
	淀川河川公園(-0.25)	中之島公園(-1.07)
川(-0.74)	川(-0.74)	川(-0.53)
鴨川(-1.58)		
桂川(-0.53)	淀川(+0.82)	大川(-0.69)
宇治川(-0.25)	大和川(+0.55)	
	神崎川(+1.37)	堂島川(+0.36)
		土佐堀川(+0.10)

港区は地下鉄の駅（弁天町、朝潮橋、大阪港）を中心とした認知度の上での3つの核を含む交通施設と港湾関連施設のウェイトが大きく、とりわけ海・船・港のイメージが強く、漠然と大阪港のイメージがあるといえる。

海のイメージについては、港区の住民以外では陽気なものとなっているのに対し、住民調査では陰気となっている。港区の住民は、港区以外の人と比べて港あるいは海に対しより具象的に感じていると思われる、この点が海についてのイメージの持ち方に違いを生じさせたのであろう。

以上、住吉区と港区のイメージを構成する要素を抽出し、また、住民調査と会場調査との比較を行ってきた。両区を比較してわかることは、港区、住吉区については、イメージの偏りが著しく、区全体としてのイメージを捉えることが比較的容易である。外部の人間からみた客観的なイメージと、実際に生活している人からみたイメージとに差があるものはいくつかあった。実際の空間構成とイメージの関係を把握し、イメージの改善に最も寄与する構成要素の発見とその改良というアプローチを取るべきであろう。

(5) 計画可能な地物（既存調査との比較）

ここでは計画可能な地物として道路、公園、川について取り上げる。また、男女性の評価値について大阪、京都においてなされた調査との比較を表-9に示す。この結果、高速道路、街路、路地、公園、川といった一般の名詞レベルでは、街路のように評価値の正負が逆転するものもあるが、概ねその評価値は安定していることがわかる。

道路は交通機能の面あるいは構造物としてとらえると高速道路のように男性的に評価される。しかし、御堂筋のように街路樹による景観、ショッピングストリートとしてとらえられたとき女性的にも評価される。

道路については大阪の代表的な幹線道路である御堂筋、新御堂筋、中央大通りと、住吉区、港区の幹線道路（阿倍野筋、あびこ筋、長居公園通り、中央大通り、国道43号線、港通り）をとりあげた。（図-3）住吉区の阿倍野筋、あびこ筋、長居公園通りは3軸の平均値が互いに似ており、街路のそれとも近い。街路らしい街路といえるが、逆にこれらの

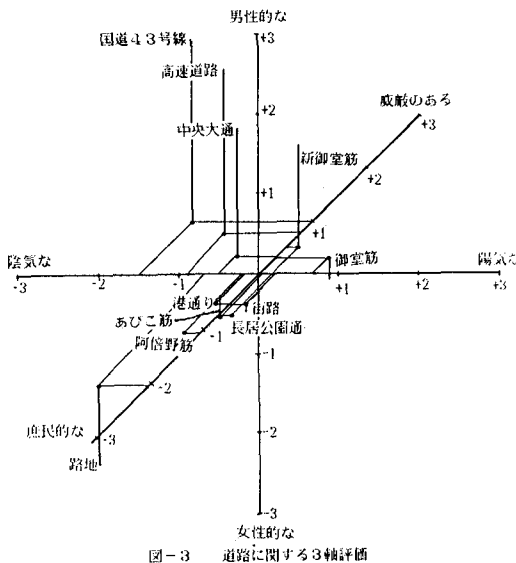


図-3 道路に関する3軸評価

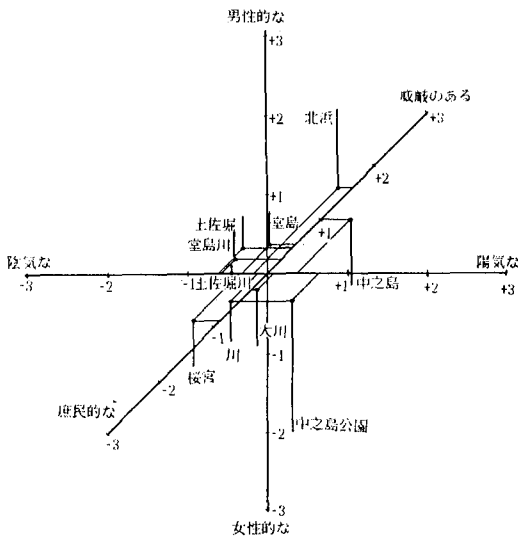


図-4 川に関する3軸評価

街路はイメージ上で明確に区別されていないとも考えられる。またあびこ筋はあびこ、長居公園通りは長居というように、道路の名前と同じ地名のイメージは互いに影響しあっていると思われる。長居は長居公園（公園）より長居公園通り（街路）のイメージが強い。港区の3つの幹線道路では、中央大通り、国道43号線が威厳的であるのに対し、港通りは庶民的だとされている。港通りは他の2つと違って地下鉄の高架橋や高速道路による景観面での影響

が少ないとともに、ネーミングも影響していそうである。

公園は女性的な評価を受けている施設である。今回の調査では、大阪において中之島公園が男女性軸で「公園」に最も近い。公園も競技場、マラソンコースを備えるなど機能が偏ると長居公園のように男性的に評価されることもある。また、天王寺公園のように公園の周辺環境からその機能を十分果たしきれない場合も男性的に評価される。

連想調査においては河川関連の語（川・河川・淀川・大和川・木津川）を19人が答えており、大阪のイメージに対して川の影響力が大きいことが推し量られる。

川も女性的な評価をうけている施設の一つである。しかし、大河になるほど、あるいは運水機能が強調されるほど男性的に評価されるものと思われる。京都の川は女性的に評価されているのに対し、大阪の川は男性的に評価されがちである。大川（旧淀川）および沿河岸の地区に関して3軸での評価を図-4に示す。大川は桜宮、中之島公園のように女性的な地域を沿河岸に有している。堂島や土佐堀といったビジネス街は、中之島をはさんで、沿河岸に有する堂島川や土佐堀川のためか男性的ながら北浜のように強い男性性を示さない。

4. おわりに

男性性・女性性を中心に地域のイメージについて考えてきた。大阪について、あるいは大阪の区についてそのイメージを構成する地物が抽出されその場所の持つ機能との対応を性感覚の面から検討した。その結果、性感覚と機能は比較的簡単な対応関係があり、地物を総合的にとらえようとするとき有効な尺度になると思われる。

参考文献

- 1) 佐佐木綱; 都市の性-都市の性格尺度として-; 1985
- 2) 佐佐木綱, 西井和夫, 井上亮; 計画における地物の男性性・女性性の計量化に関する考察; 1986
- 3) 佐佐木綱, 西井和夫, 井上亮; 街路空間の男性性・女性性の計量化に関する考察; 1986
- 4) 大阪市土木技術協会; 地域の特性と属性からみた地域計画調査報告書; 1985